

第1回やまなしスポーツエンジン（仮称）設立準備委員会 概要

1. 日時

令和3年6月15日（火曜日）午後2時00分～午後4時15分

2. 場所

オンライン会議

3. 出席者

○ 構成員

五十嵐雅彦、遠藤俊郎、大芝武（代理）、金子政一、清水正、高原幸次、
田部純一、辻昌彦、土屋淳、内藤裕志、中山哲郎、入戸野文隆

※五十音順、敬称略

○ 山梨県

スポーツ振興局長、スポーツ振興局理事

4. 会議概要

- ・ 山梨県にはまだできていないが、全国的にはたくさんの市町村にスポーツコミッションができています。県が、スポーツツーリズムの分野をリードしていくことになると思うが、市町村との整理も必要になる。
- ・ 自然であるとか、スポーツコンテンツにどう付加価値をつけて、どうプロデュースをして新しい価値を生むのかというところが一つポイントになってくる。
- ・ スポーツで稼ぐといった時に、KPIとして、何をもちて稼いだということになるのか。現状スポーツで幾ら稼いでいるのか。将来的にスポーツで幾ら稼ぎたいのか。そういったKPIを明確に設定しない限り、どんなにアイデアを出しても、絵にかいた餅になってしまう。
- ・ コーチングでも稼がなければいけないし、選手でも稼いで良い時代なので、文化としてのスポーツと考えると、広い範囲で捉えると良い。
- ・ 山梨県の中にどんな魅力があるのか、どんな資源があるのかというのを、棚卸ししていかなければいけない。
- ・ どこでマネタイズするのは非常に難しいと思うので、いわゆる法定外目的税、こちらの導入ということも視野に入れた中で、議論していかなければいけない。
- ・ 合宿の誘致やスポーツイベントの開催に積極的に取り組んでいる町村もある。これから検討していく中で、これまで一生懸命やっているところの背中を押す。これまで、それほどスポーツに関して力を入れてなかったようなところの底上げをするような組織になっていけば良い。